

目次

まえがき i

序章 なぜ「職業」と「タスク」から女性の就業をとらえるのか ……	1
第1節 本書の目的 ……	1
第2節 職業・タスクに着目する意義 —制度背景・データ基盤・研究上の位置づけ ……	3
1 「仕事基準」と「人基準」——賃金・雇用制度の国際比較 ……	4
2 職業やタスクに着目する政策的背景 ……	5
3 職業情報提供サイト（job tag）の意義 ……	6
4 女性の就業研究における職業・タスク分析の位置づけ ……	8
第3節 均等法施行後の法制度と企業の雇用慣行の変化 —世代比較の前提 ……	13
第1期 関連法制度導入期（1986～1998年） ……	13
第2期 関連法制度拡充期（1999～2011年） ……	14
第3期 女性活躍推進期（2012～2025年） ……	15
第4節 本書の対象——分析の範囲と世代区分 ……	17
第5節 本書の構成 ……	19

第I部 女性の就業をとらえる新たな視角 —職業とタスクに着目したアプローチ

第1章 仕事の中身をどう測るか —職業・タスクの概念と研究動向 ……	25
第1節 用語の定義と概念 ……	26
1 職業・職務・タスクの関係 ……	26
2 タスクとスキルの区別 ……	27
第2節 職業やタスクに着目したアプローチ ……	29

1 人的資本理論の展開：職業・タスク特殊的人的資本への着目	29
2 タスク等の職業特性に着目したアプローチ	31
3 個人レベルのタスクに着目したアプローチ	35
4 日本における仕事や職務に着目した研究	38
BOX1 日本の職業分類の特徴——ISCO・SOC との比較から	40

第2章 女性の就業をとらえ直す

——均等法後40年の環境変化と新たな分析視角	45
------------------------	----

第1節 均等法後40年の女性の就業環境の変化	46
1 労働需要側の変化：産業構造の変化と非正規雇用の増加	46
2 労働供給側の変化：女性の教育水準と就業行動の変化	46
3 国際比較からみた日本女性の就業の現状	49
第2節 日本女性の就業行動に関する先行研究	52
1 女性の就業行動を説明する理論的アプローチ	52
2 女性の就業行動に関する日本の研究動向	55
第3節 本書の分析枠組み——職業とタスクに着目したアプローチ	62
第4節 データ——職業・タスク・スキルに着目した分析基盤	64
1 job tag の職業別数値情報	64
2 職業小分類レベルの職業分類を用いている調査	65
3 PIAAC	68

BOX2 job tag の数値情報をどう使うか

——研究上の活用のポイントと留意点	71
-------------------	----

第II部 日本女性の仕事とスキル活用

——均等法後35年の変化と国際比較	
-------------------	--

第3章 日本女性のタスク分布はどのように変化したのか

——均等法後35年間の男女比較	77
-----------------	----

第1節 はじめに	78
第2節 方法	80
1 データ	80

2	タスクスコアの算出方法	81
第3節	分析結果——タスク分布の変化と男女差	84
1	5タスクの分布の変化	84
2	性別の5タスクの分布の変化	86
BOX3	5つのタスクと賃金・健康はどのような関係にあるのか	89
第4節	まとめと考察	91
補論1	職業スキルの分布の変化	93
補論2	職業分類の細分化とタスクスコアのバイアス ——ジェンダー差の過小評価とタスク分布の歪み	96
第4章	日本女性のスキルは活かされているのか	
	——国際比較による検証	103
第1節	はじめに	104
1	背景と問題意識	104
2	国際比較の視点と制度的・社会的背景	105
3	分析課題	107
第2節	方法	109
1	データと分析対象	109
2	主要な変数	109
3	分析モデル	110
第3節	分析結果——就業・スキル活用・賃金	113
1	記述的分析	113
2	回帰分析による検証	115
3	第1回PIAAC調査後10年間の変化 ——第2回調査の知見から	121
第4節	まとめと考察	124
BOX4	高校生は30歳の自分のキャリアをどう考えているのか	
	——PISA2018の国際比較	131

第Ⅲ部 均等法後の女性のキャリア

——ライフイベントと就業継続・再就職・転職

第5章 出産時の就業継続行動はどのように変化したのか

——改正均等法前後の世代比較	137
第1節 はじめに	138
1 背景と問題意識	138
2 先行研究と分析課題	139
第2節 方法	141
1 データ	141
2 分析対象	142
3 主要な変数	143
4 分析モデル	147
第3節 分析結果——出産時の初職継続の世代差	148
1 記述的分析	148
2 回帰分析による検証	152
第4節 まとめと考察	156

第6章 出産離職後の再就職

——前職の職種経験は活かされているのか	163
第1節 はじめに	164
1 背景と問題意識	164
2 先行研究と分析課題	164
第2節 方法	166
1 データと分析対象	166
2 分析モデル	167
第3節 分析結果——再就職のタイミングとキャリア継続	170
1 記述的分析	170
2 回帰分析による検証	173
第4節 まとめと考察	179

第7章 転職により仕事内容と賃金はどのように変わるのか	
——タスク距離からみた男女差	185
第1節 はじめに	186
1 背景と問題意識	186
2 先行研究と分析課題	187
第2節 方法	189
1 使用データ	189
2 主要な変数	189
3 分析方法	194
4 転職者サンプルの特徴	195
第3節 分析結果——タスク距離と収入の男女差	197
1 記述的分析	197
2 回帰分析による検証	200
第4節 まとめと考察	206
BOX5 コロナ禍におけるテレワーク制度適用の男女差	
——なぜ女性の制度適用率は男性より低いのか	214
終章 女性の能力活用をめぐる課題と展望	
——職業・タスク分析からの示唆	217
第1節 均等法後40年の女性の仕事とキャリアの変化とその課題	218
第2節 女性労働研究に対する理論的・方法的示唆	220
第3節 政策的示唆	222
1 職務等の無限定性の見直しと女性のキャリア継続	222
2 非正規雇用労働者のスキル形成機会と制度利用の改善	224
3 キャリア中断後のスキル再構築と円滑な再就職の促進	225
4 職業情報インフラと職業分類統計の整備・活用	226
第4節 本書の限界と今後の課題	228
BOX6 キャリア形成を支援する制度にはどのようなものがあるのか	230

x

参考文献	233
初出一覧	251
索引	253
あとがき	259
著者紹介	264